

宝泉寺で発見!

## 田野々のお宝

# 雨乞い踊りに込められた水への祈り



田野々雨乞踊保存会のメンバーは現在40人。豊稔ダムにかかる橋の欄干には、雨乞い踊りの様子が刻まれています



## 三豊平野の水瓶に400年伝わる

五郷には、井関池、豊稔池、五郷ダムと3つの水瓶があります。古くは江戸初期、西島八兵衛によって井関池が築造され、これによって大野原の開墾が始まり、県内随一の農業地帯として発展してきました。

そんな五郷の水瓶の一つ、田野々地区の豊稔池が造られたのは昭和5年のこと。当時、五郷の人たちは、老若男女を問わず総動員で堰堤工事に協力したそうです。

雨の少ない香川県では、水は文字通り“いのちの水”。田野々は稲作が盛んな地域ですが、山が浅いため少しの日照りでもすぐ干ばつが起こり、人々を苦しめていました。いよいよ水がなくなり、田んぼが白くひび割れてくると、「土瓶水」と言って、大切な井戸水を稲の根本に一株ずつかけてまわったと言います。そうした水への並々ならぬ願いが、豊稔池を実現させたのでしょう。

田野々には、人々と水との関わりを色濃く伝える踊りが残されています。「田野々雨乞踊」は、およそ400年前、薩摩法師が伝えたと言われる雨乞いの踊り。日照りが続くと、慈雨を願って地区の代表者らが夜中過ぎから高尾山に登り、竜王社へ籠って踊りを納めます。踊りは、「けいご」と呼ばれる歌い手を中心に浴衣にたすき姿の太鼓打ち、花笠をつけた踊り手たちが輪になって踊ります。昭和9年から一時途絶えていましたが、昭和47年に地元の人たちの尽力で復活し、香川県の無形民俗文化財に指定されました。



上：昭和46年5月20日、竜王社への奉納の様子  
(出典「雨乞踊今昔と保存会春秋」田野々雨乞踊保存会)

下：高尾山山頂の竜王社  
(写真提供：田野々雨乞踊保存会)

## たのの 田野々ってこんな所

豊稔池ダムの上流、山中にあって盆地状の平野にたたずむ桃源郷のような集落。その昔、弘法大師によって大伽藍が営造されようとした伝説が残っている。法泉寺では、毎年もみじ祭りを催しており、色鮮やかな3色もみじを目当てに多くの見物人で賑わっている。また、毎月第3日曜には田野々の入り口付近にてやまびこ市が開かれており、地元産品が販売されている。ダムの上流にあることから、水の流れが清らかで、近年ではホタルの舞いが名物となっている。

## 他にもあるよ！田野々のお宝



### 11 豊稔池石積式アーチダム

干害対策として1930年に完成。同方式のダムでは日本最古。夏の「ゆるぬ抜き」は圧巻。国の重要文化財。



### 12 法泉寺

11月の「もみじ祭り」では、1本の木が3色に染まる3色もみじが見事。「田野々雨乞踊」の伝承にも尽力。



### 13 鎌倉神社

田野々の氏神様を祀る。3月には子どもが矢を射り、その年の豊作を祈る「百々手」が行われる。



### 14 山びこ市

豊稔池堤前広場で、田野々で採れた野菜や果物、手作りおはぎや大判焼などを販売。(毎月第3日曜9時~15時)



### 15 愛媛県境から見る夜景

田野々の集落の最奥、愛媛との県境から見る川之江の夜景は絶景。海に沈む夕日にも息を飲む。

## 地元の口コミ

「田野々米」は、酒米として川鶴酒造でも使われとるんよ

その昔、空海が田野々に大伽藍を営造しようとした逸話も

「喫茶まんさく」に行くと、田野々のいろんな話が聞けるよ